

第51回 抗議デモ・学習会を開催

令和7年11月8日(土)、烏山地域の町会・自治会や衆議院、都議会、区議会の各議員も参加し、抗議デモと学習会を実施しました。

最初に烏山区民センター前広場にてシュプレヒコールをあげ、オウム真理教の後継団体の一つであるひかりの輪(上祐史浩代表)の施設に向け抗議デモを行いました。

学習会では、地下鉄サリン事件の頃からオウム真理教問題を第一線で取材しているテレビ朝日報道局「スーパーJチャンネル」の清田浩司デスクが講演されました。

清田デスクからは、オウム真理教による大きな犯罪を未然防止できなかった背景や問題点について「捜査」と「報道」の両視点から説明がありました。報道機関にはオウム真理教の実態を社会に明らかにした「功」がある一方、警察情報に依存しそうした結果の誤報やメディアスクラム等の「罪」があると分析すると共に、弁護士一家殺人事件や松本サリン事件の被害者側のメディア不信に対して、当事者として長い時間かけて信頼関係を再構築してきた取り組みも紹介されました。

テレビ朝日で放映された上祐氏へのインタビューも上映され、「ああ言えば上祐」と言わされた同氏の質疑応答手法は現在も不变な



ことを確認しました。最後にオウム真理教問題は現在進行形の問題であり、報道機関は「裏取り」を生命線にこの問題を報道し続ける責任があるとの力強いコメントをいただきました。

終了予定期刻が過ぎても質疑応答が続くなど、参加者の強い関心と問題意識が表れた充実した学習会となりました。

抗議文

今年は地下鉄サリン事件から30年の節目の年である。多くのメディアがオウム真理教の一連の犯罪を振り返ると共に、今でも後遺症に苦しむ被害者や犠牲者遺族の変わらぬ苦しみを報道し、我々はオウム真理教の犯罪の非道さと、今なお続く問題の深刻さを改めて強く認識した。

しかし、オウム真理教の後継団体である「アレフ」、そしてここ烏山に拠点を置く「ひかりの輪」は、被害者や犠牲者遺族に対する本格的な賠償や謝罪から長年逃げ回るなど、30年を経ても自分たちが犯した行為に真摯に向き合っていない。

それどころか「ひかりの輪」の上祐は全国各地でセミナー・勉強会と称して勧誘活動を続けている。一方でメディア取材やSNSでは「アレフ」や公安調査庁を批判し、あたかも自分がオウム真理教の問題から距離を置く「ご意見番」であるかのような評論家的な発言をしている。

上祐は、無責任に他者を批判する前に、新たな宗教被害者を生む勧誘活動を直ちに止め、自らの賠償責任を果たし、その上で「ひかりの輪」を早期に解散・解体すべきである。

行政や地域住民からの支援や新たな参加者により、当協議会は「ひかりの輪」が解散・解体するまで粘り強く闘うことをここに宣言する。

令和7年11月8日

烏山地域オウム真理教対策住民協議会
会長 古馬一行

〈学習会及び協議会活動への感想〉

～以下、学習会アンケートから一部抜粋～

【学習会への感想】

*現場や当事者を報道する立場から見てきたオウムを知ることができて良かった。清田さんの関心を追体験したようでした。なぜこうなった?に対する答えを今後も追ってほしいと思います。

*長きに渡り取材してきた記者としての視点からの話は、非常に興味深かった。メディアとしての反省点も含め、事情の経緯を今改めて辿る講演であり、烏山に引き続き不安が存在すること、このことを解決しなければならないことを認識することができました。

*メディアが警察報道を鵜呑みにしている事、裏取りもしないで報道しているのは本件のみではないだろう。また、警察の初動捜査の甘さを知るにつれ、怖さを感じるとともに、自分が同じ立場になった時に、何ができるのか考えさせられた。

*関心を持ち続けることが大切と再認識した。

TVを見なくなったので、こういう問題を思い出すことがないまま、YouTubeも見ます。

*権力側からの発信、そして報道をそのまま鵜のみにすることは危険だと思った。それはどうしてなのかと自分の頭で考えることが重要なのだと思った。

*アレフの麻原の次男が、どのように育ってきたのか知りたくなった。麻原の子だとはいえ、同じような人物になるとは限らないが、やはり親や周りの人達で過去を反省し、次男に伝えていく人間が皆無(不在)だったのかと想像した。

*普段お話を聞けない方からの講演だったので貴重な機会でした。時系列がまとまって分かりやすかったですし、メディアの反省をメディアの方から聞けたので印象的な講演になった。

【住民協議会への感想】

- ・デモに参加するたびに事件の忘却を感じる。風化を防ぐことが常に課題であると思う。
- ・今夏は、非常に暑い夏でした。そのような時でもずっと活動を続けておられることに心から敬意を表します。皆さんお身体を大切に、できる範囲で(できることを)続けていただければと思います。
- ・デモ行進は、ダラダラ歩くだけのデモが多い中、皆さんの気合いが最後まで続いていたのは、あのリーダーのあおり方が上手だからだった。住民活動は、こうあるべきという一例を見た気がする。
- ・次の世代へ教団の恐ろしさを伝える重要な活動だと感じた。
- ・オウムを風化させない活動に長年に渡り取り組んでいただき、本当に頭の下がる思いです。
- ・若い人たちの参加を促したい。

協議会ホームページアドレス <https://www.karasuyama-kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。

